

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470300720		
法人名	有限会社 ホワイト介護		
事業所名	グループホーム 箕田の北さんち		
所在地	三重県鈴鹿市下箕田2丁目5番地5号		
自己評価作成日	平成 21 年 10 月 15 日	評価結果市町村提出日	平成21年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470300720&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 21 年 11 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症高齢者の人権と尊厳を図ること事業の目的として、身体的・薬物・施設管理等による拘束からの解放を基本方針とし、認知症高齢者の人格的自立を支援し、限りなく個別化を図り、自己決定に基づく生活を保障し施設との新しい家族関係が樹立できることを運営方針として、日夜取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

塩浜街道を海側に入った閑静な住宅地の一角に煙突がのびた2階建ての建物がこの事業所である。デイサービスと開閉式の扉一枚で仕切られて共用されている。リビングは2階に吹き抜けで、冬用の暖房用の藁きストーブが置かれている。開設から7年が過ぎ、開設当初からの利用者が2人、今も事業所で過ごされている。事業所の理念、「利用者の自律、自己決定、利用者本位」の介護をめざしているものの、年々身体能力が低下し、認知症の進行等で利用者の思いの表出が困難になってきている。その中でも思いを汲み取る理念に添うケアが実践されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義の理念の共有に関しては職員間では確立しているが、いざ、実践には欠けている。	事業所の理念は玄関に大きな字で掲示され、職員もその理念をよく理解し共有されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	取分けて日常的に交流は行ってはいないが、施設周辺の散歩時には、こちらから積極的に挨拶、社交辞令には務めている。	開設当初から近隣の方との良好な関係作りを心がけているものの苦慮している。利用者の現況から老人会、自治会へ加入しても活動が困難と思われるので加入はしていないが地域の回覧板や広報誌は届いている。	自治会などに加入して、普段の地域との付き合い、交流も推進されるよう期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所単独ではないが、法人全体として総括施設長が認知症全般に関し、市内地域全般をとおり、講演活動に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より、利用者家族も委員のメンバーに参画してもらい、会議で提案されたことに関しては、可能な事柄から柔軟に対応している。	昨年の外部評価で助言を受けて、本年度から利用者、家族全員に推進会議参加の案内をし、事業所の行事時に推進会議を開催することにも取り組んでいる。地域代表の方からは、行事その他諸々と地域の情報の提供を受けている。	年間開催6回をめざし、行事時での推進会議開催においても、報告書の作成をお願いしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者には行事の案内を行ったり、機関紙等は郵送ではなく、直接手渡しし連携の足固めとしている。	書類の報告、行事案内など必ず行政に出向いて担当者に手渡すよう心がけ、情報の収集にも努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員は、当施設の基本理念でもある拘束のないケアにとりくんでいる。夜間の防犯上の施錠以外は実施していない。	身体拘束、薬物による拘束、施設管理からの拘束の開放をパンフレットに明記され、全職員がその方針のもと介護をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は県・協会等の虐待防止の研修には積極的に参加し、全職員に熟知させ全員で防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等には参加しているが、職員全員には熟知されていないのが現状で、制度の活用の支援には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、必ず、家族に十分な説明を行い、質疑に応じ、納得を得てから締結、解約の行為を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常時設置の意見箱に加え、運営推進会議のメンバーとして全家族・利用者にも入ってもらい、共同で運営に参画してもらっている。	家族会の開催や、運営推進会議への出席、ご意見箱の設置などから意見要望を聞く機会を設けているが、本年度から介護支援専門員が年に2回家庭訪問をして、家族とじっくり話し合う場を持つ計画である。	家庭訪問は新たな取り組みであり、ぜひ実行されるよう期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例の職員会議で意見・提案等を検討し実践に繋ぎ込んでいる。	月に1回、全職員参加の会議があり、その場で意見交換がされている。また、改善点などがあれば、毎日の朝礼時などで意見が出され改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所開設当初に比較すると、向上はしているが、現状は更なる整備が必要と感じる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会には1名であるが必ず参加させ、その後、伝達講習・復命させ、全員に周知してもらう。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地区の(鈴鹿・亀山)同業者とは、年に1度の作品展を共同参画し、その会議の都度情報交換を図っている。また研修会も企画している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所開始をする前に、併設のデイサービスや体験入所を適宜行い、その間に職員との信頼関係を構築するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家庭に訪問し、本人の生活リズム・生活史家庭環境等、情報収集を行うことで家族との信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所開始をする前に、併設のデイサービスや体験入所を適宜行い、まず最優先する支援を見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者個々の有する残存能力を見極め、個々の能力に応じた軽作業を職員と共に行うことにより、互いに協力しながら共に生活していると言う自覚を認識してもらうよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族旅行等を開催し、当日は職員は付き添うが、介助、支援は家族に率先して行ってもらう、職員の日常の支援の一部でも理解してもらい、家族と職員の関係の保持に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設から個々の馴染みの場所や、人に会いに出向いていくことはないが、極力友人、知人への面会の呼びかけを図っている。	併設のデイサービスの利用者の方との交流は日常的でありデイと一体になった生活を送られている。事業所での生活が「なじみ」の場になっている方がほとんどである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者本人から進んで関わり合うことは極稀であるが、可能な限り共通な趣味や話題を提供し、孤立化予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院、他施設への移動に関しては、退所後数カ月間は面会に赴くことはあるが、相談や、支援には至っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話や、生活観察、記録の確認等で把握できるよう努めている。困難な場合は、本人の意思決定を尊重している。	自ら思いを表出できる方が少なくなってきたり、会話や様子から思いを汲み取ってその思いにそった支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所直後は、既存のフェイスシートにて把握し、その後は日常生活の会話等から把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックを始とし、前日の夜間の心身状況等の記録を参考とし、本人に接することで日々の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員でのモニタリングは定期的に行ってはいるが、本人・家族等の意見に欠けた計画作成だと思われる。	3ヶ月に1回の見直しがされている。介護支援専門員が計画書の原案を作り、全職員の会議でモニタリングがされて、修正した計画書が作成され、家族の同意を得ている。変化があれば随時の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者と常に寄り添い、支援することによって何気ない動作・会話から異変を察知し、記録に留め、職員間で情報を共有し、計画の見直し時に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本来入居者の通院に関しては家族での付き添いとしているが、急病は勿論、家族が非協力的な場合は、職員を増員して通院支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	模索中であるが、運営推進会議の地域代表等のメンバーの意見を参考にし、支援に取り組んでいきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科的受診に関しては4週毎に主治医に往診をしてもらい、その都度結果を家族に密に連絡を行い、又、他の受診に関してはその都度家族に連絡し、家族又は職員が付き添い受診を行っている。	4週間に1回協力医の往診がある。歯科医は3ヶ月ごとに往診がある。かかりつけ医などの受診は家族にお願いをしているが出来ない時は事業所が通院支援をしている。受診後、FAXにて「結果連絡票」で家族に報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設には看護職はいないが、併設のデイサービスの看護師と連絡を常に密にし看護体制をとり支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院中は、週に数回面会に行き、その都度担当医又は看護師と面談し、病状の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との話し合いは有るが、具体的な方策に関しては確立されてはいない。今後、早急に取り組んでいきたい。	利用者も高齢化、重度化されているので個別でどうするか相談はしている。	指針、契約書等整備されて、共有化されるよう期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の実技講習は適時全職員を対象に行い初期対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震等に関しては、年2回昼夜を想定し、利用者全員避難訓練を行っている。ただ、地域との協力体制に関しては現在模索中である。	通報訓練、消火訓練、放送訓練、避難訓練、2階からの救護訓練等さまざまな災害を想定し訓練が実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員この事については常に念頭において対応しているが、ともしれば、日頃の慣れ親しみから友達のような軽率な口調にも成りがちである。	利用者と職員が長いおつきあいから、つい気安くなることもあるが、その中でも尊厳を損なう言葉遣い、態度にならぬよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時々に応じ、可能な限り時間をかけて話を聞き、本人の納得いくよう話し合いに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々のペースに合わせ、一緒に生活を送っている。動作の緩慢、行為の中断に関しても急かすことなく、飽くまでも本人に歩調を合わせることに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常に加え、四季に応じた個々に適したお洒落な服装の選定を行っているが、理髪に関してはボランティアによるものであり、理髪者は同一の髪形になりがちであるので、その点を検討して行きたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じ可能な方で、野菜等の下準備を職員と共に行ったり、毎食の食器の後片付け等を行っている。	3食のうち、特に昼食に一番力を入れており、デイサービスの利用者と同じものが提供されている。とろみ食やミキサー食、食事制限の方もあるが、職員がカロリーも計算してバラエティー豊かな献立である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事・水分摂取量を記録し、その結果に基づき、調理員に連絡し本人の体調を鑑み、量の変更、調整等を図り支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕の歯磨き(口腔ケア)に関しては個々に応じ実施しているが、残念ながら昼食後はできてはいない。専門員(歯科医師・歯科衛生士)による口腔ケアは定期的に全員を対象に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、適時にトイレ誘導を行っている。誘導を拒否する利用者にはトイレとは言わないで、さり気なく声かけを行い、トイレにて排泄が行えるよう支援している。	日中は、パターンを把握し、トイレ誘導をしてトイレでの排泄支援をしている。夜間も自分でトイレへ行かれる方もあるが、どうしてもという方はオムツを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	施設内での散歩、エレベーターを利用しないで、なるべく階段での昇降に努めてもらい、腸内運動の活性化を図り、又、食事面に関しては水分・繊維質の素材を意識して摂取してもらうよう働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴に関しては、本人の意思に任せ行っているが、入浴拒否、意志の伝達が不能な方に関しては、職員が管理、介入し清潔保持を支援している。	毎日お風呂は沸かしている。デイサービスと事業所と風呂が2つあり、どちらの風呂を使うかは好みである。入浴拒否の方もいるが、3日目には職員の連携のもと入浴してもらい清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の意思により居室で過ごしたり、皆の集まる食堂で、他の利用者との交流を楽しんでいる。眠れない人については、原因を探求し、個人のリズムが取り戻せるようリズム作りを支援する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬に関しては、職員全員が熟知して支援している。薬の変更、副作用に関しては必ず連絡帳に明記し、全職員が常時把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた楽しみを考え支援しているが、全員に毎日何かを提供することは、とても困難である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、その日に個々への外出支援は困難である。しかし、定期的に希望者対象に花見・外食・催物見学・ショッピング等を行い支援している。又、年に1度であるが、家族と共に旅行を計画し触れ合いを支援している。	日常的な外出はADLの低下で困難なため、月に1~2回気分転換をかねて外食をしたり、花見や催し物、買い物に出かけている。昨年の10月は家族の協力で伊勢神宮参拝の日帰り旅行を実施した。今年はインフルエンザの流行で来春に実施したい意向である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理・価値能力の有る利用者は稀ではあるが、その人たちには一緒に買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	以前は電話の仲介や、ハガキ・切手の購入等支援していたが、現在支援できる対象者が居ないのが実情である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明の明暗、温度・湿度の調整を適時行い、又四季折々の草花・季節行事の手製の作品等を飾り季節感を演出している。	デイサービスと仕切り扉で分かれているものの共用されている。デイサービスの方とは顔なじみでもあり仲良く生活されている。暖房用の藨きストーブも間もなく出番を待って暖炉が暖かい雰囲気を出している。2階と吹き抜けで明るい空間作りがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	晴天の日には、屋外の建物空間の芝生に設置のテーブルで椅子に座り、気の合う仲間同士でお茶を飲んで時間を過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際家族と相談し、転倒事故の危険性があると家族が判断した場合は、必需品以外の物は持ち込まないが、その危険性がない方に関しては、使い慣れたちゃぶ台等持参してもらい混乱なく施設生活に移れるよう支援している。	各居室は洗面台、エアコンが設備されている。ドアを開けると目の前に壁があって、プライバシーの配慮が伺える。カーテン、ベットは自前で、テレビ、こたつ、整理ダンスなど思い思いのものが持ち込まれ、自分らしい居室作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設の主要個所には、手すりを取り付け、安全に動作ができるよう配慮し、又、居室からトイレまでの導線に、トイレの表示を多数掲示して自力でトイレまで到達できるようにしている。		